カトリック　三軒茶屋教会

おとずれ

2016年8月15日発行　第61巻 第5号

聖母の被昇天号

被昇天祭によせて

主任司祭 ミカエル 湯 澤 民 夫 神父

被昇天祭、もともとは、聖母マリア様の亡くなった記念日だったようである。古くは、1 月 18 日だったようだが。聖母マリアは、イエス・キリストの母として、神の母として崇敬されてきた。『ヤコブの原福音書』にもあるように、生まれた時から聖であり、両親も神の母となるべく彼女を「聖」であり続けるように配慮してきたし、配偶者の聖ヨセフ様も彼女の聖性を保たせたのである。こうして、比較的容易に、神の母となるよう、最初から用意された方であるとして、生まれた時からアダムの罪の汚れ（原罪）から、保護されてきた、と考えられたのである。これが、聖母マリアの無原罪の教えである。

このことは、古い民であるイスラエルの民が、聖なる神の民であると言われたことを考えると、私たちとも無関係ではない感じがする。旧約の民は、神が聖であるから「聖でありなさい」と求められたが、洗礼の時に、聖霊によって新たに生まれた私たちが、更に神に似ることを求められても、不思議ではない。「聖であれ」、「完全であれ」、「慈しみ深くあれ」と。

他方、聖母マリア様が亡くなったことを記念することは、自然であろう。そこから、霊魂が肉体を伴って天に揚げられたということには、少し飛躍がありそうである。西洋に入った東方教会の聖母マリア様の死の記念は、「眠りにつく」といった意味で、魂が天に揚げられたことを祝ったのである。あるいは、魂に新しい天の肉体が与えられた、とも考えられたのである。霊魂が肉体を伴って、とういうことには、世の終わりといった、別の雰囲気が伴うかも知れない。なぜなら、旧約時代から、世の終わりには、魂は肉体を伴って復活すると考えられ、イエスの復活も、そこから類推されたからで、聖パウロをはじめ、自分たちの時代を、既に世の終わりの時と思ったからである。

今私たちは、どう思ったらいいのだろうか。もし、聖母マリア様だけの出来事として、被昇天祭を祭るとしたら、私たちと、あまり関係がなく、聖母マリア様への崇敬のあまり、祝うに過ぎなくなる。私たちは、むしろもっと私たちとの関係を意味あるものとして見てもよいのではないだろうか。父である神が、御自分の意思を全うしたことから、御子を復活させ、天に揚げたとするなら、聖母マリア様も、同じように、それに与かったのだろう。とするなら、彼女は、伝説によると 72 歳で亡くなったそうだから、いいお婆ちゃんである。その彼女をそのまま父である神様が揚げられたとしたら、私たちも、ありのままで上げられる可能性があるということではないだろうか。亡くなって三日目に使徒たちの前に現れた聖母マリア様は、成人の、大人の、つまり、亡くなった時の姿だったと言われているからである。もしそうだとしたら、私たちがありのままの姿で、受け止めてもらえる希望の祝日と言える、と思う。

カトリック浅草教会を訪問して

ヨゼフ会　フランシスコ・ザビエル 齋 藤　登

ヨゼフ会では 2 年前の浅草教会壮年会の来訪の答礼として、6 月 19 日東京都内で 2 番目に古いカトリック浅草教会を訪問し、江戸の殉教の歴史を聞いたり、晴佐久主任司祭のミサに預かるという案内があったので、私は総勢 12 名と共に参加しました。浅草という地名から賑やかな街中を連想しますが、元々教会は住宅街にあったようで、緑とマンションが調和した落ち着いたたたずまいの中にありました。

現在の聖堂は後述の歴史を経て 1987 年に完成したもので、入り口のプレートに掲示してある台東区建築景観賞受賞建築だけあって立派な外観です。加えて旧聖堂から移設された大型ステンドグラス「誕生・十字架の死・復活」は一層荘厳さを引き立てておりました。ミサに与った後に伺った事ですが、聖堂内の収容人数は 100 人強であり布教上の理由から意識的に抑えて設計されたそうです。つまり、大勢の信者を一同に集めるより、複数の教会に分散した方が良いとの当時の判断に基づいたそうです。

お聖堂には今回の訪問をお世話して下さった元三軒茶屋教会の瀬戸毅さんご夫妻が待ち受けていて下さいました。お聖堂には我々シニアーグループとは対照的な横浜二俣川教会中高生グループが十数人もおり、噂通り晴佐久神父様のミサ開始時には立席参加者が複数見られました。

ここで「訪問記」から若干横道に逸れますが、私は正直申し上げて今回浅草教会訪問を企画された佐藤武彦さんから伺う迄は「晴佐久神父」はもとより「お説教」共に全く知識がありませんでした。そこでインターネットで検索すると過去 6 年分の膨大なお説教を読むことが出来たのです。では晴佐久神父様の説教の何が人を惹きつけるのか、私なりに端的に申せば、非常に身近なところで起きる事象や人間関係を題材にして、それをカトリックの教えからどうとらえるかを、分かり易く自由に話されるからと思いました。

それでは、今回のお説教の一部をご紹介しましょう。

『今朝信者の一人が長年一緒にいたペットの猫の葬式を教会でして欲しいと依頼がありましたが、私はこのようにお話ししてお断りをしました。「猫には人間と違い魂がありません。一方人間は楽園で罪を犯し原罪があるので教会に来て神様からお許しを頂いてから天国へ行きますが、猫は原罪がなくきれいな心のままですから、教会に来なくても真っすぐ天国に行けるのです。ですから、貴女は、また会うことが出来るのです。でも聖水で猫ちゃんを清

めて上げましょう。」』
ペットを愛する私に取っても心の安らぐお話でした。もう一つご紹介します。
『長らくガンを患って体中パイプだらけになっている患者さんが何かを話したがっているようなので、パイプを一時外して下さいと家族から要望があり、取り外して上げた処、その第一声が「アゝ、この病院は刑務所よりひどい！」という事でした。
楽しい天国が見えているのに、良かれと思って無理やりこの世に引き留め患者さんを苦しめることが日常よくある事なのです。』
私はこのお話しを家族全員に浸透させたいと心底より思いました。
ごミサの後、壮年会の方々が懇親会を開いて下さり、大型写真パネルによる浅草教会の歴史とその背景、敷地にあるキリシタン殉教記念碑等懇切丁寧なご説明を頂きました。説明下さった壮年会長老森口さんは９１歳、お祖父さまがこの地で明治二年に受洗され、まだ当時としては相当な勇気要した時代背景であったと言われました。
1549 年ザビエルが鹿児島に上陸して 50 年目にフランシスコ会の神父が初めて江戸に宣教を始め、江戸に建てられた二つだけの教会の一つが浅草教会だったそうです。江戸の信徒の主体的な信仰と行動は大変活発なものでしたが、その後の禁教令により、この教会の近くにあった鳥越刑場で 28 人のキリシタンが殉教し多くの信徒が追放されたのです。その血は浅草教会の信仰の礎となって、260 年の苦難の時を経て 1877 年浅草教会が再興されました。前述のとおり、現在の建物は関東大震災、戦災を経て 1987 年に建て替えられ、緑に囲まれた教会の庭の一角には、浅草教会の方々との集合写真で見られるように「浅草・鳥越きりしたん殉教記念碑」が建立されています。カトリック浅草教会では、この殉教記念碑に加え、ごミサの最後に幕府の迫害にも屈せず神への純正な心を貫き通した人々をいつまでも心に留め置くように「鳥越殉教者賛歌」を参加者全員で歌うならわしとなっております。地域との交流も盛んで地元のお祭り鳥越祭には敷地を一般に開放し教会独自のデザインによる半被を着て交流を図るそうです。

今回の歴史ある浅草教会の訪問を通じて私たちは信仰の心を新たにすることが出来ました。三軒茶屋教会の皆様も是非浅草教会への訪問をお勧めします。本紙をお借りし、瀬戸毅様始め浅草教会の皆様に感謝申し上げます。

以上

6 月 19 日・浅草教会の会議室でヨゼフ会同士の交流

三軒茶屋教会ヨゼフ会メンバーⅠ

三軒茶屋教会ヨゼフ会メンバーⅡ

浅草教会ヨゼフ会森口さんから説明を受ける当ヨゼフ会メンバー

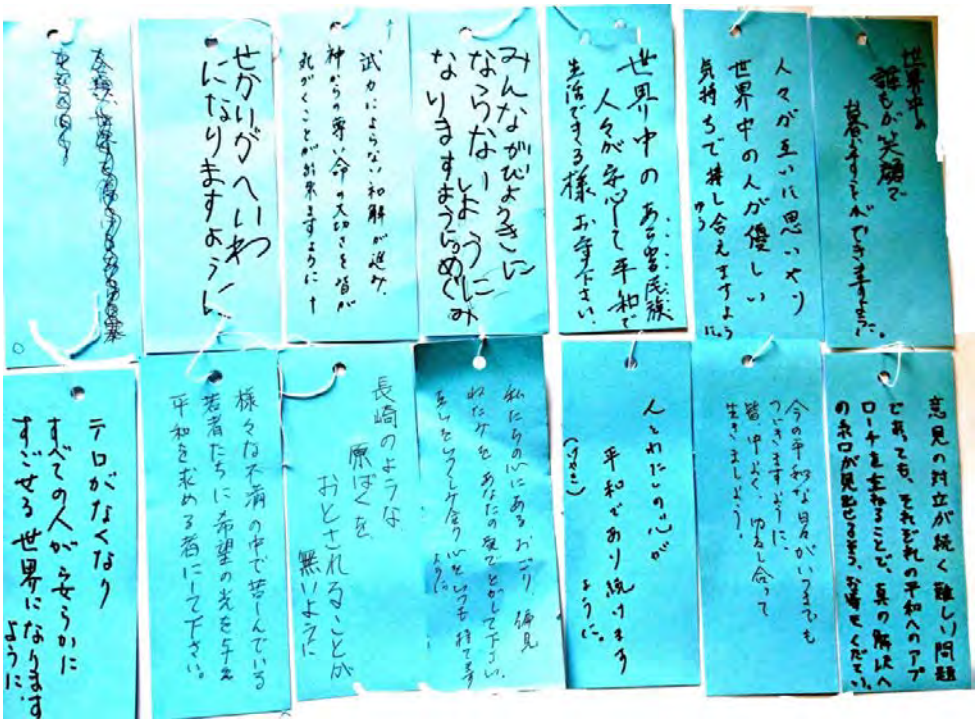
浅草教会の歴史を振り返る写真の説明

浅草教会・聖堂後方の大型ステンドグラス「誕生・十字架の死・復活」

キリシタン殉教記念碑前で

2016 年平和の祈り

へいわの祈り・短冊



人のうごき

帰 天　主よ、永遠の安息をお与えください

2016 年 6 月 17 日

マリア・アスンタ　岡村　愛　　④ブロック

2016 年 6 月 19 日

ジェンマ　楠田　絢子　　⑥ブロック

こよみ

８ 月

８月１４日（日）　年間第 20 主日

８月１５日(月)　聖母の被昇天祭

８月１９日(金)　聖ステファノ（ハンガリー）

８月２１日(日)　年間第 21 主日

８月２４日(水)　聖バルトロマイ使徒

８月２７日(土)　聖モニカ　サマー・フエスタ(土曜子ども会・ボーイ ガール スカウト)

８月２８日(日)　年間第 22 主日　玉川通り宣教協力体・合同堅信式

８月２９日(月)洗礼者ヨハネの殉教

９ 月

９月　３日(水)　聖グレゴリオ 1 世教皇教会博士

９月　４日(日)　年間第 23 主日

９月　８日(木)　聖マリアの誕生

９月１１日(日)　年間第 24 主日

９月１６日(金)　聖コルネリオ教皇

９月１８日(日)　年間第 25 主日

９月２１日(水)　聖マタイ使徒福音記者

９月２４日(金)　洗礼者聖ヨハネの誕生

９月２５日(日)　年間第 26 主日・典礼研修会 講師宮越俊光氏

９月２９日(木)　聖ミカエル、聖ガブリエル、聖ラファエル天使

１０ 月

１０月　１日(土)　聖テレジア（幼いイエスの）おとめ教会博士

１０月　２日(日)　年間第 27 主日

１０月　４日(火)　聖フランシスコ(アシジ)修道者

あ　と　が　き

◇聖母の被昇天祭号です。今夏は、厳しい暑さが連日続いておりますが皆様も熱中症の対応は、充分ご留意ください。

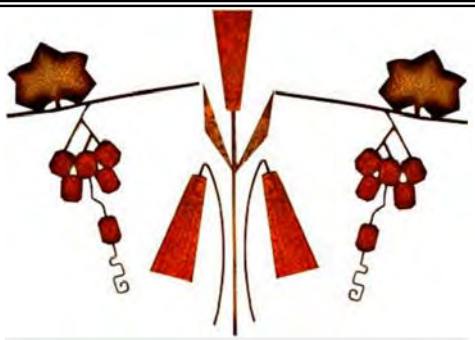
◇今号の「おとずれ」の巻頭言は、湯澤神父様の「被昇天祭によせて」と題しての記事を掲載しております。私たちがありのままの姿で、受け止めてもらえる希望の祝日と述べられています。

◇去る、6 月 19 日(日)当教会ヨセフ会のメンバー12 名が浅草教会を訪問しました。東京教区の教会の中で。最も歴史のある浅草教会の訪問記です。

◇Rio オリンピック体操競技・男子個人総合決勝で、内村航平選手が優勝し堂々金メタルを獲得しました。個人総合では 44 年ぶりの快挙でしたが、私達も大いに勇気をもらいました。

◇来る、8 月 28 日(日)玉川通り宣教協力体・合同堅信式です。三教会で 31 名の受堅者がおられます。当教会からは、17 名の方々が堅信の秘跡授かります。受堅者の皆様のために、お祈りください。

◇次号「アシジの聖フランシスコ号」は 10 月 4 日発行です。原稿締切は 9 月 25 日です。



『おとずれ』第 61 巻 第 5 号 2016(平成 28 年)8 月 15 日発行
発　　行　カトリック三軒茶屋教会
編集・印刷　カトリック三軒茶屋教会･広報委員会
主任司祭：ミカエル 湯 澤 民 夫
〒154-0024 世田谷区三軒茶屋 2－51－32
TEL 3421-1605　FAX 3421-9788
http://home.f05.itscom.net/sancha/index.htm
sancha-catholic0629@leaf.ocn.ne.jp

典礼研修会のご案内

新しい「ミサ典礼書の総則」に基づく変更箇所が実施されて半年が過ぎました。
より深く理解できるようお話をいただきます。

テーマ　私たちは記念してささげます
～「総則」に基づく行動的参加をめざして

講師　宮越俊光 氏（日本カトリック典礼委員会秘書、上智大学講師）

日時　**2016年9月25日(日)**

ミサ	9:30 ～10:30
第一講話	10:40 ～11:25
休憩	11:25 ～11:35
第二講話	11:35 ～12:20
質疑応答	12:20 ～12:30

場所　**カトリック三軒茶屋教会２F聖堂**

問い合わせ先　三軒茶屋教会　03-3421-1605